

〈地理〉選定の観点からみた内容の特色

観点 『中学社会 地理』の特色と具体例

選択、程度、分量

- 社会科の目標に照らして、適切な内容が取り上げられているか。
 - 学習指導要領の「社会科の目標、各分野の目標、内容、内容の取扱い」をふまえ、地理的分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項が明確におさえられている。典型的な教材への焦点化と学習内容の重点化が的確に図られ、特に、社会の変化や今日的課題が反映された事象を積極的に取り上げることで、生徒の「未来を切り拓く力」を育むように配慮されている。
 - p.128～131「日本の領域はどこまで?」「日本の国境をめぐるさまざまな動き」、p.146～149「さまざまな自然災害」「災害を防ぐ『防災』から、被害を減らす『減災』へ」
- 生徒にとってわかりやすく、興味や関心を喚起する内容が選択されているか。
 - 生徒の日常生活や経験と関連の深い身近な話題・内容が多く取り上げられているほか、巻頭や折込のページを中心に、興味・関心を喚起する写真資料が豊富に盛り込まれ、学ぶ楽しさや意欲が高まるように配慮されている。また、巻頭には、地理の学習を始めるにあたって、その意義や学び方について紹介するページが設けられている。
 - 巻頭1～2「世界のさまざまな風景―世界遺産」、巻頭3～4「地理の学習を始めよう」、p.12「世界から『こんにちは!』」など
- 生徒の学力向上に対して、どのように配慮されているか。
 - 全体のページ数や本文の記述量を充実させ、学習内容を詳しく丁寧に扱うことにより、基礎的・基本的な事項の確実な習得が図られるように配慮されている。本編のページに設けられた「ふりかえる」「読み解こう」のコーナーやコラム、学習を広げたり深めたりする特設ページ、そして最後に取り組み「学習のまとめと表現」のページというように、段階的な学習（→「学習活動」の欄を参照）を通して学力の着実な向上が図られるように構成されている。また、本文中には、資料との関連がわかる資料番号や、前出・後出する関連箇所への参照ページも挿入し、さらに見開き右ページの欄外にも「関連ページ」を示す箇所を設けて、学習項目が関連する教科書内にある他の箇所も示すなど、学習の支援となるように工夫されている。
 - p.2～3「もくじ」、p.4～5「『地理』教科書の使い方」、全般
- 全体や単元の分量が、適切に設定されているか。
 - 年間授業時数をふまえ、世界と日本の地誌学習に重点を置くなど各単元の扱いに軽重をつけることにより、生徒がじっくり追究しながら充実した学習を展開できるように配慮されている。本編については、授業の展開や学習の見通しがつかみやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成されているほか、学習指導計画上でもゆとりのある時数が担当され、学校や地域の事情に応じて、特設ページの扱いなどにより弾力的な時数の運用ができるように設定されている。
 - 本編時数（第1編：47、第2編：59、計106／120）

組織・配列

- 単元が学習指導要領に対応し、適切かつ系統的に構成されているか。
 - 単元構成は、学習指導要領の内容の区分や順序に準拠し、「編・章・節」の配列により、その対応がわかりやすく組織されている。特に、「日本の諸地域」の七地方区分は、西南部・中央部・東北部に再編して学習しやすいように構成している。さらに、「もくじ」で単元構成と学習内容の全体が一覧でき、学習の位置や見通しがつかみやすいように工夫されている。
 - p.2～3「もくじ」
- 教育基本法および道徳教育との関連が、十分に図られているか。
 - 改正教育基本法第2条の第1～5号および学習指導要領第3章「道徳」の第2に示された内容について、社会科の目標や学習内容と関わらせた指導を効果的に行うことができるように構成されている。ボランティアを含めた公共的な活動や政策に取り組む人々の様子を取り上げ、活動の内容や人々の思いに触れる学習を通して、社会形成への参画意識を高めるように配慮されている。
 - p.190～191「古都のまちづくり」、p.196～197「開発と環境保全の歩み」、p.263「まちづくりの提案」など
- 小・中の接続や関連に関して、どのように配慮されているか。
 - 教育出版「小学社会 6下」のキャラクターが中学生に成長した姿で紙面に登場し、共に学び合う意識が連続するように工夫されている。文体は「です・ます」調で、第1学年の学習範囲には小6の担当漢字にもふりがなを付けるなど、平易な記述に配慮されている。特に、巻頭の「地理にアプローチ」には、小学校で学習した地図のきまりや地図帳の使い方、グラフの種類などを振り返る活動を位置づけているほか、各編第1章に、ワークシートのように直接書き込む作業活動も取り入れるなどの工夫が図られている。
 - p.5「キャラクター」、p.6～10「地図やグラフを読み取るう」、p.13「三つの海洋と六つの大陸」、p.127「時差について考えてみよう」など
- 分野間の関連に関して、どのように配慮されているか。
 - 地域の歴史に関する記述や資料が多く取り上げられ、世界や日本の各地の特色について歴史的な歩みや背景と関わらせてとらえられるように構成されるなど、歴史的分野との関連が図られた構成となっている。また、第2編・第4章「身近な地域の調査」には、発表会に地域の方々を招いて意見を提案するなど、地域社会への参画意識を高める学習が設定され、公的的分野の学習への橋渡しを図られるように構成されている。
 - p.60～61「歴史の歩みと現代の課題」、p.176～177「政令指定都市の発達」、p.190～191「古都のまちづくり」、p.263「まちづくりの提案」など

観点 『中学社会 地理』の特色と具体例

表記・表現、資料

- 記述内容が、正確・中立で一貫しているか。
 - 記述内容が正確・中立であることはもとより、中学生の思考や論理展開に整合しており明快である。学習の導入から、課題の設定と追究、まとめに至る構成と記述が一貫しており、学習事項の確実な定着を図ることができる。
 - p.112～120など全般
- 記述の読みやすさに配慮されているか。
 - 地名・人名などの固有名詞や社会科特有の用語などには、見開きごとにふりがなを付けるとともに、小学校との接続をふまえ、第1学年の学習範囲には小6の学習配当漢字にもふりがなを付けることで、読みのつまづきが軽減するように配慮されている。また、主要な文字には教育的配慮を施した書体を用いているほか、文章は平易な表記・表現に徹し、側注や巻末には用語解説も掲載するなど、読解に負担がかからないように配慮されている。
 - 全般
- 資料が正確で、効果的に提示されているか。
 - 社会科学習に不可欠な写真・イラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、出典と併せて視覚的にとらえやすく配置されている。本編ページの各資料には、指示しやすいように通し番号を付けるとともに、本文中にも資料との関連がわかるように資料番号が挿入されている。また、巻頭や折込・扉のページを有効に活用したレイアウトにより、資料性と学習効果が高まるように構成されている。特に、両開きの折込ページに、ダイナミックな衛星画像や伊能忠敬の日本地図が掲載され、地図への興味・関心と資料活用能力を高めるように工夫されている。
 - p.46～47など全般、p.121～124「宇宙からとらえた地球／日本列島」など
- 文字や色覚に関して、判読しやすいように配慮されているか。
 - 視力や色覚に関しては個々の特性があることに留意し、すべての生徒にとって見やすいカラーユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがされ、第三者機関CUDOの認証も受けている。文字についてはユニバーサルフォントによる黒文字を基本とし、白抜き文字や色文字は十分な大きさを確保しているほか、図版資料については、配色とともに形や模様、引き出しなどの表示も工夫することにより、判読しやすいように配慮されている。また、巻頭の資料ページには、生徒が触って体感することができるように、点字の加工が施されている。
 - 巻頭5「触れて読む地図を知っていますか?」、p.6～9など全般

学習活動

- 生徒が、主体的な学習活動に取り組むことができるように配慮されているか。
 - 生徒にとって親しみやすい中学生や教師のキャラクターが登場し、気づきや問い、学習の手がかりなどが示唆されている。学習者の視点を取り入れることで、共感しながら学びに取り組みるように工夫されている。また、本編ページのタイトルには、学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識を明確にできるほか、「ふりかえる」「読み解こう」のコーナーや「学習のまとめと表現」での課題への取り組みを通して、生徒が自ら学び、自ら考える学習が展開できるように配慮されている。特に、調べ学習では地域での調査活動に必要な学び方の手がかりが、「地域調査の手引き」のコーナーに示されるように構成されている。また、中学社会の学習指導要領の内容を超える「発展的な学習内容」についても、本編の学習と関連づけた「発展」として取り入れられ、区別しやすいように「発展」マークが付けられている。
 - p.4「本文ページの見方・使い方」、p.5「キャラクター」、p.71「読み解こう」、p.117「地域調査の手引き⑤」、p.139「(発展)なぜ、日本では地震が多く起きるのか」など
- 「習得」型・「活用」型・「探求」型それぞれの学習活動やその支援が、どのように取り入れられているか。
 - 「習得」型学習活動への支援として、本編各見開きページごとに、ページの最後に学習したことを整理しながらまとめ、表現する活動として「ふりかえる」のコーナーが設けられている。章や節の最後には「学習のまとめと表現」のページが設けられ、学習を振り返って地図にまとめる活動を通して、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。巻末には学習資料として「用語解説」や「世界の国々のあらし」や「日本の都道府県のあらし」が掲載され、生徒の地理的認識を高めるように配慮されている。「活用」型学習活動への支援としては、本編ページの中で学習の流れに即して「読み解こう」のコーナーが設けられ、地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取って考察できるよう工夫されている。さらに「学習のまとめと表現」のページでは、習得した学習事項を活用して説明・論述する言語活動が積極的に取り入れられている。特に地図の活用に関しては、世界の州や日本の地方の精細な地勢図が適宜掲載され、学習を進めながら常に地図を活用できるように構成されているほか、中学校で身につけたい世界や日本の略地図を描く活動や、地形図の見方と活用の仕方も詳しく扱われている。「探求」型学習活動の支援としては、今日的な課題に迫る特設ページ「地域から世界を考えよう」「現代日本の課題を考えよう」が設けられ、興味・関心に応じて個々に探究する学習に取り組めるように構成されている。
 - 【習得型】p.13「ふりかえる」、p.40「学習のまとめと表現」、p.266～271「用語解説」、p.272～275「世界の国々のあらし／日本の都道府県のあらし」など
 - 【活用型】p.22「世界の略地図を描こう」、p.58「多くの国々と自然環境」、p.65「読み解こう」、p.126～127「位置の表し方と時差」、p.142～143「地形図を使って地形をみていこう」、p.163「九州地方の地勢と各県」など
 - 【探求型】p.67「甘いチョコレート之苦い現実」、p.222～223「交流による地域づくり」など

観点 『中学社会 地理』の特色と具体例

- 思考力・判断力・表現力を育てる言語活動が、どのように取り入れられているか。
 - 本編ページの「ふりかえる」「読み解こう」のコーナーや、章・節末の「学習のまとめと表現」のページにおいて、「読む（聞く）→考える→書く（話す）」という言語活動に取り組む際の視点や方法が、学習内容と関わらせて具体的に例示されている。
 - p.4～5 「『地理』教科書の使い方」、p.40 「学習のまとめと表現」など

- 生徒が、協働学習に取り組むことができるように配慮されているか。
 - 本編ページに設けられた「ふりかえる」のコーナーでは、学習したことをもとに「挙げてみよう」、「まとめよう」などの課題が多く設定され、自分の意見が他者との交流を経てさらに深まっていくように配慮されている。また、地理的分野では、世界・日本の地誌の後に設けられた地域調査の学習において、テーマを決めてまとめたレポートをクラスのなかで発表したり意見交換を行う場面や、グループで野外を歩きながら調査テーマを決めたり、班ごとに調査結果を発表し合ったりする場面を設けて、教え合いや学び合いによる協働学習をもとにした知識の習得や、生徒の学習意欲を向上させる工夫が図られている。
 - p.119～120 「調査活動を振り返る」、「世界のさまざまな地域の調査」をまとめる」、p.256～257 「調査活動の順序と方法」、p.262 「調査結果のまとめと発表の方法」など

社会的課題

- 人権教育・福祉教育に関して、どのように配慮されているか。
 - 『中学社会』の編集方針の柱である「人間尊重の精神」に基づき、差別や人権確立の歴史、人権をめぐる現状と課題についての考察を通して、すべての人の権利が守られる、差別のない「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では、世界のさまざまな民族・文化と社会との関わりを通して、多様な価値観や文化に対する理解と寛容を育むことができるように留意されている。
 - p.106～107 「多文化主義の社会を目指して」、p.198～199 「東アジアと結びつく街」など

- 環境教育や、持続可能な社会の形成に関して、どのように配慮されているか。
 - 3分野を通じて、自然環境と自分たちとの関わりや、環境保全の重要性について多面的に考察し、理解を深める学習活動が重視されている。「地球規模で考え、足元から行動する」観点が強調され、廃棄物の減量やリサイクルをはじめとする循環型社会への転換を追求する教材が積極的に取り上げられ、環境保全のために自ら行動できる力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では、温暖化や酸性雨などがもたらす環境破壊の現状とその対策について多角的に取り上げ、地球環境問題の解決には国際的な協力はもとより、自らの行動が不可欠であることの理解を深めるとともに、自然災害と防災、開発と環境保全に関する具体的な事例を豊富に取り上げ、自分たちの暮らしとの関わりについて関心と考察を深めるように留意されている。
 - p.76～77 「ヨーロッパの環境問題」、p.96～97 「開発による環境の変化」、p.173 「環境モデル都市に選ばれた水俣市」、p.196～197 「開発と環境保全の歩み」など

- 国際理解教育に関して、どのように配慮されているか。
 - 3分野を通じて、外国（人）との交流や地域の国際化、世界の多様な文化・宗教などの事例が豊富に取り上げられている。国籍や文化・習慣の違いを越えて相互に理解・尊重し合う必要性が強調され、国際社会に生きる日本人として「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では、世界各地の人々の労働の様子を取り上げ、地域の自然条件や社会条件と人々の暮らしとの関わりについて興味・関心を高めるように留意されている。
 - p.24～p.39 「人々の生活と環境」、p.75 「外国人労働者の増加と課題」、p.210～211 「多文化共生を旨として」など

- 平和教育に関して、どのように配慮されているか。
 - 3分野を通じて、先の世界大戦がもたらした惨禍や冷戦の影響、核兵器廃絶への取り組みをはじめ、現代の地域紛争や国際テロなどの問題について理解が深まるように配慮され、平和を希求することの意義が強調されている。特に地理的分野では、宗教の違いをめぐる対立や紛争の背景を通して、共存のあり方について考察が深まるように留意されている。
 - p.57 「宗教をめぐる共存と対立」、p.79 「独立をめぐる民族の争い」、p.93 「世界に展開する軍事力」など

- 情報化の進展や、情報リテラシーの育成に関して、どのように配慮されているか。
 - 3分野を通じて、情報化の進展に伴う社会や生活の変化、情報の有効な活用について理解が深まるように配慮されている。特に地理的分野では、情報通信の発達と地域間の結びつきとの関わりや情報発信に関わる学習、情報格差の問題について取り上げられている。
 - p.158～159 「交通・通信の発達と国際化」、p.263 「まちづくりの提案」など

今日的課題

- 地域（郷土）への愛着に関して、どのように配慮されているか。
 - 3分野を通じて、地域の歴史や現状、抱える課題などについて実地に調査し、理解を深める学習活動が重視されている。特に地理的分野では、地場産業や伝統産業と、それに携わる人々の暮らしの様子を取り上げ、自然環境や歴史的背景との関わり、継承への取り組みなどについて理解を深めるとともに、各地の地域おこしの事例を通して、地域社会が抱える課題と、地域を活性化するための人々の工夫や努力について考察を深めるように構成されている。
 - p.180～181 「地域おこしの知恵」、p.208～209 「雪に育まれた伝統産業」、p.228～229 「現代に生きる地域文化」など

観点 『中学社会 地理』の特色と具体例

- 社会への主体的な参画に関して、どのように配慮されているか。
 - 3分野を通じて、地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々などの事例が積極的に取り上げられ、社会の形成者としての自覚と参画への意思が養われるように配慮されている。特に地理的分野では、「身近な地域の調査」の発表会に地域の方々を招いて意見を提案する学習を通じて、地域社会への参画意識を高めるように留意されている。
 - p.261 「まちづくりNPO」、p.263 「まちづくりの提案」など

- 伝統・文化に関して、どのように扱われているか。
 - 3分野を通じて、地域の歴史的な歩みや人々の暮らしと密接に結びついた伝統・文化の多様性やその継承という観点から、多文化共生への理解と、郷土や日本への愛着を深める学習活動が重視されている。特に地理的分野では、日本の世界遺産・無形文化遺産・伝統的建造物や、郷土の伝統工芸士への聞き取り調査などの学習を通して、伝統と文化の意義や、継承していくことの大切さについて理解を深めるように留意されている。
 - p.124 「日本にはどんな世界遺産があるのだろうか」、p.228～229 「現代に生きる地域文化」、p.248～249 「アイヌの人たちの文化にまなぶ」、p.258～259 「聞き取り調査をしよう」など

- 宗教に関して、どのように扱われているか。
 - 3分野を通じて、改正教育基本法に示された「宗教に関する寛容な態度、一般的な教養」を重視する観点から、特に地理的分野では、世界にはさまざまな宗教があり宗教と関わりの深い生活が営まれ、同じ地域でも宗教その他の社会的条件による生活の違いがあることに気づくことができるように配慮されている。仏教、キリスト教、イスラム教などの世界的に広がっている宗教のほか、さまざまな民族・宗教と社会との関わりなどについて取り上げている。分布図との関わりで、分布の境界は必ずしも明確に分けられないことにも触れながら、多様な価値観に対する理解と寛容を育み、多文化共生社会を創造する態度を養うことができるように配慮されている。
 - p.38～39 「世界の民族と宗教」、p.51 「さまざまな民族と宗教」、p.55 「サウジアラビアのイスラム教徒」、p.57 「宗教をめぐる共存と対立」、p.113 「歴史や宗教を調べる」など

- 防災教育に関して、どのように扱われているか。
 - 3分野を通じて、自然災害と防災に関する現状と課題、今後のあり方についての理解と考察が深まるよう配慮されている。特に地理的分野に関しては学習指導要領解説の改訂を受け、「防災対策にとどまらず、災害時の対応や復旧、復興を見据えた視点」から、減災の考え方や東日本大震災についても触れながら、災害時における公助・自助・共助について具体的に理解が深まるよう、本文だけでなく的確な図版・写真を用いて取り上げている。
 - p.146～147 「自然がもたらす災害と向き合う」、p.148～149 「災害から身を守るために」、p.236～237 「震災を乗り越えて」

- 少子高齢化・人口減少社会をめぐる問題に関して、どのように扱われているか。
 - 3分野を通じて、少子化・高齢化という現在の日本において深刻化が著しい問題について理解が深まるように配慮されている。特に地理的分野に関しては、世界と日本の人口をめぐる現状について扱うと共に、世界的にみても類のない速さで少子化・高齢化が進んでいる日本の状況について、具体的な事例や人口ピラミッドなどのグラフなどを用いて多角的な理解が深まるように取り上げている。
 - p.150～151 「増加する人口、かたよる分布」、p.152～153 「過密・過疎と少子高齢化」、p.178～179 「過疎による地域の課題」、p.184～185 「荒廃の進む日本の山村」

- 地図教育に関して、どのように扱われているか。
 - さまざまな地図について、その読み解き方や有効な活用の仕方などに関して、丁寧な説明と共に学習活動が深まるように配慮されている。本編では、随時本文と関連させながら、「読み解こう」や「地理にアプローチ」などの各コーナー、また折込には、オリンピックの開催地や世界遺産など生徒の興味・関心と結びついた地図資料を配し、的確な理解が深まるように留意されている。
 - p.21 「地理にアプローチ」、p.44～45 「中国の多様な人々と農業」、p.121 「夏季オリンピックの開催国・都市の分布（2020年まで）」、p.124 「日本の世界遺産の分布」、p.131 「竹島、尖閣諸島の位置」、p.153 「都道府県別みる65歳以上の人口割合の変化」、p.179 「読み解こう」

- 領土をめぐる課題に関して、どのように扱われているか。
 - 3分野を通じて、日本の領土をめぐる現況や問題が、学習内容に応じた的確に取り上げられている。特に地理的分野では、日本の国土と領域に関する学習のなかで、日本固有の領土である北方領土や竹島が不法に占拠されている問題について、本文と写真で記載されている。
 - p.128～131 「日本の領域はどこまで？」 「日本の国境をめぐるさまざまな動き」

印刷・製本

- 印刷の仕上がりは、鮮明で見やすいか。
 - 文字や図版などの印刷は鮮明で、色彩もビジュアル性が高い。特に、写真の発色がきれいで、統計資料も読み取りやすい。

- 本の造りは使い易いか。また、環境への配慮はなされているか。
 - 複数年の使用に耐えうる堅固な製本で、装丁にも汚れにくい加工や、氏名を記入しやすい型抜き加工が施されている。表紙は、地理的分野の学習内容に関連した写真で構成され、明るく魅力的である。また、印刷には、バイオマス（生物資源）エネルギーによって発電されたグリーン電力のほか、再生紙と大豆油インキが使用され、環境への負荷を軽減するように配慮されている。
 - 表紙、裏表紙